

日本山岳会 越後支部報

第 28 号

令和2年6月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 桐生 恒治

新潟県見附市学校町1-9-19

TEL・FAX 0258-62-0148

広報委員長 佐久間 雅義

私の一枚

ガスの晴れ間に雷鳥

蓮華温泉から白馬岳を目指した。この日の天候は、ガスが湧いたり晴れたり繰り返す。白馬大池を後に雷鳥坂の登りにかかると、近くで「グーグー」という声が聞こえた。雷鳥だと思ったがガスで何も見えない。立ち止まって待つと、ガスの晴れ間に3～4羽の姿が見えた。

ガスの日は、彼らにとっては絶好の行楽日和である。

撮影者 鈴木勝利



越後支部活性化に向けて本格始動

YOUTH委員長 佐藤レイ子

入会できた喜びとステータスで、何もしたくてもそれなりに意義がありました。

しかし、それも近年薄れ、ましてや活動していない山岳会では入会希望が減るのは否めません。

私が日本山岳会に入会した20年前、同期の会を立ち上げ活動を始めました。平均年齢も52歳と比較的若く、各地の山を持ち回りで計画したり、エクスペディション経験者も何人かいて、冬は八ヶ岳が定番、海外遠征も何回か実施しました。中央分水嶺踏査では担当区間を山スキーや藪漕ぎで一丸となつて達成したのが懐かしい思い出です。この活動は貴重な体験となりました。

会員を増やすためには、まず会が活発に活動することが重要です。だから支部の会山行を増やす必要性を度々進言しているのですが、一気呵成とはいきません。オールラウンドな活動ができる会を目指すには若い人の入会が必須であり、技術継承のためには実践の場が不可欠です。

YOUTH委員会では、今後、玉木副委員長をチーフに59歳以下を対象にできるだけ集会に参加してもらい、本部YOUTHや他の山岳会と交流を深め、若い仲間の入会を進めて参ります。山岳会未加入のフリーの人の加入も促進します。

一方、私のほうは昨年から始めた「平日トレッキング」や週末の公募登山で越後支部を周知し、少しでも会が活性化するように努めます。

今年は新型コロナウイルスが流行し、公共施設等が全て休館、学校も休校、全てのイベントが中止、移動制限などで大変でした。1月中旬、私がイギリスから帰国した時点では、まだ話題にすらなっていないかったのに、その2週間後、クルーズ船から始まり、国内に瞬く間に広がり、2月末とうとう新潟にも感染者が出ました。そして3月に入ってから毎日のように感染者が増え、身近に迫ってくるウイルスの脅威に戦々恐々とした日々が続きました。この支部報が発行される頃には静謐を願っています。

さて、越後支部活性化に向けていよいよ本格始動です。中央と太いパイプを持つ桐生支部長直轄で昨年からのYOUTH委員会を設け、若手会員の勧誘・加入・育成のため本部YOUTH CLUBからの協力・指導・支援を開始し、1月25日～26日に第1回交流会を玉木副委員長出席のもと、妙高杉ノ原（宿泊は「笹谷山荘」）で開催しました。（会報「山」2月号掲載）

そして第2回目を3月7日～8日に土樽で開催予定でしたが、例の新型コロナウイルスの影響で中止になりました。県山協所属の他の山岳会の若手会員が多数参加予定で、越後支部への勧誘のチャンスだったのに残念です。

越後支部は長年「何もしない支部」を標榜してきたのに、それでも順調に発展してきました。それはある程度の入会条件の不文律があり、伝統と名誉ある日本山岳会に

峠シリーズ

旧三国街道―栃原峠―

吉田理一

文化庁は令和元年10月29日「歴史の道百選」追加選定を発表しました。既に選定されている「佐渡路／三国街道」に「栃原峠」が追加選定されました。

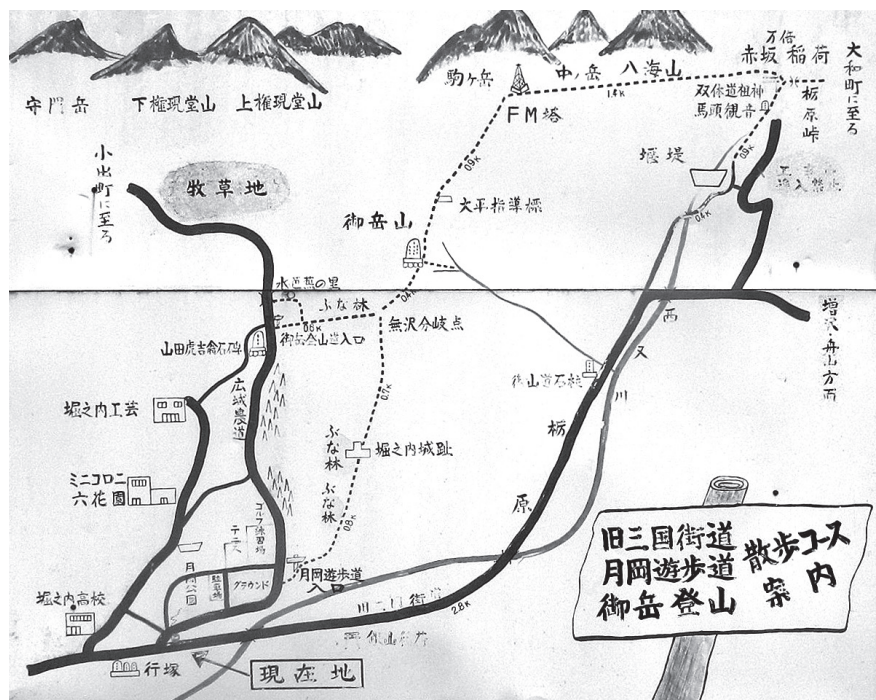
「佐渡路／三国街道」は越後と江戸を結ぶ主要な街道として江戸時代初めに作られました。

栃原峠の位置は、JR上越線越後堀之内駅と八色駅を最短距離で結ぶ標高約300mにあります。

この峠道が開削された最大の理由は、江戸時代の参勤交代で信濃川の最大支流である魚野川の渡渉が大変であった事があげられます。

江戸時代初め頃の正保国絵図によると、三国街道は、上州境の三国峠から長岡までの間に、浅貝・二居・三俣・湯沢・関・塩沢・六日町・五日町・浦佐・堀之内・川口・妙見・十日町の十三宿があり、長岡・与板・地藏堂・中島・渡部と継いで、十八宿で寺泊に達した模様が描かれています。堀之内は、越後側の10番目の宿場に当たり、正保国絵図からは、堀之内・浦佐間は、もとは浦佐村／十日町村（小出町）／小出島村を通る魚野川の東側（右岸）を往来していましたが、栃原峠の新道開削により、上りは浦佐へ、下りは川口へ継ぎ立てられるようになったことが推測されます。正保期以前より、栃原峠が三国街道の本道として使われていたこととなります。この開削により浦佐／堀之内間は、小出島回りに比べて、距離にして半里ほど短縮されましたが、何よりも大きな利点は、浦佐と四日町の2箇所の渡しを通る必要がなくなり、越後側の

内は、越後側の10番目の宿場に当たり、正保国絵図からは、堀之内・浦佐間は、もとは浦佐村／十日町村（小出町）／小出島村を通る魚野川の東側（右岸）を往来していましたが、栃原峠の新道開削により、上りは浦佐へ、下りは川口へ継ぎ立てられるようになったことが推測されます。正保期以前より、栃原峠が三国街道の本道として使われていたこととなります。この開削により浦佐／堀之内間は、小出島回りに比べて、距離にして半里ほど短縮されましたが、何よりも大きな利点は、浦佐と四日町の2箇所の渡しを通る必要がなくなり、越後側の



三国街道は、和南津（川口町、現長岡市）の渡し1箇所を渡るだけで、長岡まで通行できるようになったことです。

（資料：堀之内町史）

※現在の栃原峠の状況

JR上越線越後堀之内駅／八色駅間を旧三国街道を辿って栃原峠を経由して歩く約4時間程度です。

約20年位前から旧三国街道沿いに二車線の自動車道路の工事が始まり現在は車で通行できるようになりました。日本有数の豪雪地帯のため冬期間は通行止めです。

自動車道路は旧三国街道と重なる部分もあり又、数か所に砂防ダムが建設された際の工事用道路やそれに伴う付け替え道路等が複雑に入り組んでいて、本来の旧三国街道を忠実に歩行する事は困難になっています。

※栃原峠付近には稲荷神社や馬頭観音などが祀られていて、往時を偲ばせる幾つかの史跡も現存しています。



コロナと牧峠

七澤 恭四郎

峠とは時代をさかのぼれば交易道・軍用道・江戸への出稼ぎ・旅芸人・伊勢講・善光寺参り等、人々の行き交うところである

が、大きい街道の峠では参勤交代も成されており、それと同時に流行り病も通過したのである。また峠の麓には関所・口止め番所があった。

今回のコロナウィルスに関連して、幕末の病魔・流行り病について少々書く。

鎖国から開国へと変遷する時代、長崎から麻疹・コレラ（コリリ）・天然痘（疱瘡）・傷寒・熱病・眼病等が大阪をへて東海道を三島より登って箱根の峠、関所では検問し阻止するだけの近代医療の知識もなく、通過したのである。その時代に於いて、外見上の判断しか出来ないことは誠に残念である。江戸市中で蔓延したものは、地方へと伝播した。幕藩体制下での市井の人たちが結集して感染症と闘っていることを鑑みて、岳人も出来ることから対応し、コロナと立ち向かわなければならぬと私は思う。単に峠と言うと登山の入り口のように聞こえるが、時代をさかのぼれば全ての入口であり出口である。それでは本題の牧峠について書きます。

牧峠は関田山塊の中央よりやや東にあり、上越市牧区と長野県飯山市と隣接している。

この峠は古来関田街道の脇道として、越後・信濃の交易道で、江戸時代高田藩の商品流通での小町問屋を通さない抜け荷も公然とあったようだ。また江戸末期から明治にかけては、峠をはさんで双方の、集落での祭りには、旅芸人、草相撲の行き交った道でもある。このコースは春の残雪と新緑、初夏の高山植物の花、秋の紅葉は寂しさや憂いのような感情を呼び起す等、去るものの美学を心に残す登山スポットである。

◆コースガイド

関田峠へは、県道上越飯山線経由で光ヶ原高原を過ぎ上ると、登山口の駐車場に到着する。登山口は二つあるので、注意しながら東にある「関田トレイル（信越トレイル）」関田峠」の標柱のあるほうを登る。もう一つのほうは西側の黒倉・鍋倉の登山口であり、間違えないようにする。

東に延びる関田山塊の尾根上の山道は、雪の重みによる湾曲したブナとウリハダカエデ・オオカメノキ・ヤマウルシ・マンサク・タムシバ・ネマガリダケ等が混在している。起伏のない道を行くと、少し下って湿地帯に入りナベクラゼンソウと言う希少種を見ることが出来る。緩やかな登りにさしかかると、ブナの40～50年位経た木の下に、ブナの実生とクロモジの幼葉が実に可愛い。途中とところどころで、新潟・長野両県への眺望が望めるが、特に残雪の多いときは遠望が利き素晴らしい。1時間程して梨平峠に着く。時間があつたら、南側の長野県飯山市羽広山集落の方に少し下って、整然と並んだブナの美しい林を見るのもよい。峠に戻ってまた尾根上の道を行く、30分程行くと道を挟んで新潟県側に太いブナ林が広がっている。秋になるとブナの倒木にはブナハリタケ・サンゴハリタケ・ナメコ・等、ナラの倒木にはナラタケ等が出る。尾根道を北東に下った窪地に神秘的な牧ノ小池がある。

ここは貴重な日本の固有種であるモリアオガエルとクロサンショウウオの生息地である。このカエルは木の上に暮らし、昼間は葉や枝の間にひそみ、夕方になると葉の表面に出て、飛んでくる虫を捕って食べ

る。産卵時期（6月上旬から中旬）に行くと非常に面白い。池の上に張り出した枝の先に白い泡のような卵を産むのだが、これを抱接といって、一匹の大きい雌に数匹の小さい雄が抱きつき、雌が出す粘液をかき混ぜて泡状の巣をつくり、雌はその中に産卵する。卵の数は300～400個というから、池の周りの巣の数からして、何万個もあるのだろう。夏の終わりに変態する頃はその辺にウジャウジャいるのかもしれない。少し登るところから新潟県側にかなりの年月を経たブナ林があり見応えがある。下ると牧峠である。峠からは北側を望むと頸城平野、その向こうに日本海、天気によければ佐渡島が眺望できる。またこの峠は越冬の為に南下する絶滅危惧種のイヌワシ、ハチクマ等の猛禽類の渡りのコースとなっており、毎年9月下旬から10月中旬くらいまで、全国から野鳥ファンが、北側日本海が見える道路に訪れている。

帰りは来た道を関田峠まで戻って、時間があつたら長野県側に少し下って、関田峠森林浴遊歩道の茶屋池を一周するとよい。※立ち寄りスポット

湯の里「深山荘」 牧区宇津俣
(電話・025153316785)

新井柿崎線経由で野尻より牧区に入り宇津俣まで行き深山荘に着く。

この温泉は宝暦7年に源泉が発見され、神経痛・皮膚病などに効能があるとされている。またここは牧区の奥にある一軒宿である。



未知の山シリーズ

針生山と柴倉山

知野 勇人

2019年の4月下旬、人気のない静かな山を楽しみたいと思い、村上市と山形県小国町との県境にある針生山（863m）と柴倉山（710m）に行ってみることにした。

朝の6時に徳綱に着いた。針生平に向かう林道はまだチェーンで塞がれて車は通行止めになっていた。十数台は駐車できる広いスペースには松本ナンバーのワゴン車が1台きり止まっていた。芽生えばかりの新緑と荒川の清流を眺めながら林道を歩き、針生平の手前で雪の残る杉の植林地を抜けて何とか飛び越せそうな場所まで針生沢を涉り、沢の右岸の尾根に取り付いた。尾根にははつきりとした踏み跡があつて道とっていい程である。



巢戸々山・大日倉山

山径の両側はイワウチワが満開であった。尾根の途中には短い馬の背状の箇所があり緊張する。県境尾根への終盤は急登で灌木の枝を頼りによじ登り、704m標高点に着いた。この日は快晴で巢戸山、大日倉山と奥三面の山々を間近に一望できた。祝瓶山から朝日岳まで春の日差しで輝いて見える。素晴らしい展望を堪能した後、県境尾根を西下して柴倉山に向かう。この尾根にもしっかりと踏み跡があった。尾根が痩せて断崖箇所もあるが概ね刈払いもされてあつて歩きやすい。遠くに飯豊連峰を見ながら進む。景色を見ながら歩いているうちに871m標高点まで来てしまい引き返す。柴倉山の三角点は踏み跡から少し外れた笹藪で見つけた。三角点が無かったらここが山頂と気が付かなかった。山頂から下を見ると針生平の2棟並んだ小屋が見える。県境尾根を戻って針生山に向かい、目の前に広がる朝日岳や奥三面の展望を見ながら歩いていると突然オレンジ色の集団に出くわして驚く。熊狩りの人たちであった。6人が彦七沢方面を双眼鏡で覗いている。初めての事で戸惑っている、1人に行き先を聞かれたので答えたら、他の組も居るので静かに行けば大丈夫だ。伝えておくと言われる。彼らと別れ先に進むと尾根に残った雪の上に熊の足跡があった。ここで先程熊狩りの人に言われた言葉の意味が分からなくなる。静かにして狩りの邪魔をするなという事なのか、熊に気をつけるという事なのか、何が大丈夫なのか悩んでいるうちに針生山に着いた。山頂は小さな台地で三角点が2つ並んでいる。時刻は10時30分で気温は上

がり松の木陰が嬉しい。休憩後、ここから踏み跡の続く先が気になって歩き出したが910mのピークで眼鏡を落とした事に気付いた。慌てて眼鏡を捜しながら引き返す。下を見ながら歩いていたら県境尾根から外れて針生沢の源頭部の鞍部に向かい下っていた。元々下山コースで考えていたので、眼鏡は諦めて先に進む。814m標高点はまだ残雪があつてここにも熊狩りの人が3人いて白布沢を見ていた。うち1人は若い女性である。年配の人と少し話をして針生平に続く尾根を下った。途中で横になって休んでいる2人の方にも会った。2日前に茨城から来て地元の人に仲間に入れてもらっているという事で今日帰るそうである。熊は獲れなかったようだ。その後は誰にも会わず13時過ぎに針生平に着いた。静かな山を期待して来たが、思わぬことに熊狩りに少しでも触れる経験が出来て期待以上の山行になった。



春の日差しで輝く祝瓶山



癒しのブナの森を登り
鍋倉山へ
(越後スノートレッキング同好会)

後藤 正弘

○鍋倉山(1288m)

○期 日…令和2年3月26日(木)

○メンバー…CL後藤、SL多田、根津他2名

○コースタイム…温井8…10…11…00

鍋倉山12…30…14…30温井

(登り2時間50分、下り1時間50分)



鍋倉山山頂にて

鍋倉山は、信越トレイル(関田山脈の斑尾山から天光山を結ぶ約80kmのロングトレイル)のほぼ中間にある山で、「森太郎」(幹回り5・35m・樹齢400年以上)と呼ばれるブナの巨木が有名である。鍋倉山の長野県側は、「巨木の谷」「西の谷」など一帯が広大なブナの森となっていて、日本有数の豪雪地帯で積雪は5メートルを超えるた



巨木の谷右岸尾根を下る

め、近年バックカントリースキーの山としても全国的に知られている。

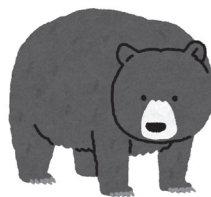
当初予定では28日(土)であったが、荒天の確率が高く急遽日程を変更して再募集した。

飯山市温井に集合、積雪は50cmほどで田圃道をたどり「田茂木池」から山小屋近くまで順調に登る。ここから、「巨木の谷」を渡り左岸尾根に取りついた。最初は狭く急な尾根も次第に広くなり穏やかなブナ尾根となった。振り返れば越後三山から谷川連峰、守門岳や浅草岳そして飯豊連峰も遠望できる。ブナのシルエットが白い雪に映え、心地よい風が吹き抜けていく。ゆつくり高度を上げて山頂に到達する。山頂から斑尾山、飯綱山、高妻山、乙妻山、妙高山、火打山などの大展望に歓声上がる。さらに日本海から米山、弥彦山や角田山もしっかりと見える。景観を楽しみながらお喋りしていたら、90分のランチタイムはあつと

いう間に過ぎた。

山頂から「巨木の谷」右岸尾根を下山していくと、平日だというのに4パーティー8人に会う。下山ルートは広々としたブナの森が気持ちよい。数日前の降雪が気温上昇で腐り、重たい雪となっていて時折深く埋まることはあるが、雰囲気のある森を下るのは実に楽しい。

「新型コロナウイルス」で閉塞感が増す現実を忘れ、自然の森に癒された楽しい一日だった。参加された仲間の皆さん、ありがとうございました。



新会員になって

松尾 知弘

2019年秋、学生の頃の先輩より誘いを受けて入会となりました。

現時点、山らしい山には出かけておらず、もっぱら上越の低山にて地元の古道保存会の皆様と、未来へ残すべき春日山、金谷山周辺の古道整備に2年くらい前から参加しております。

Facebookページあり。「金谷北地区農村元気会」

現在の公道とは違った昔の物流、伝令に使われたであろう春日山周辺の古道は、春日山城址の保存以上に人の手が入っていない道と聞いております。まだまだ古道の全貌が見えていない状態ですが、地域活性化に

なればと思っております。

私自身、山へは小学生3年生に地元糸魚川市小見の城山、5年生には糸魚川の鉾ヶ岳山開き登山が起源であり、山は「探検」できるところと自然に入り込めたような気がします。

これからも山との関わりは続くと思いますのでよろしく願います。



朝比奈信男

昨年、機会があり藤島蔵書を訪れました。まず、驚かされたのがその蔵書の数の多さ。資料の整理をされている会員の皆さんの傍らで、閲覧させて頂いた多数の地図、文献そして小片のメモにさえ、その内容に心躍りました。藤島玄氏の尽力と、氏と親交のあつた方々の足跡がこの蔵書なのだと思います。

振り返れば30年程前、自宅から見る山々の山名も覚えないうような状態で一人、山歩きを始めた頃、傍らには『越後の山旅』がありました。現在のガイド誌にはない奥深い内容は、読み物としても、資料としてもいまだ色褪せません。そう、山菜採りの情報源としても使わせてもらいました。

もっぱら頸城の山の一人歩きが続いた登山も、やがて山仲間ができ、県外の山も登るように。山を通じて人との関わりも広がり、古道や登山道整備などにも参加させて

もらっています。来年は還暦となる身。以前のようなアグレッシブな山行は難しいですが、好きな山歩(さんぽ)しながら自分の山旅を続けたいと思っています。

皆様、どうぞよろしく
お願いいたします。



松井拓也

皆様初めまして。この度入会させていただきました。すでに会員である父との登山がきっかけで、幼い頃から新潟の山を登ってきました。現在は実家の新潟を離れ、神奈川県で薬剤師をしながら、休日に丹沢を中心とした登山を楽しんでいます。

私にとって山登りをしながら四季を感じる事が登山での楽しみです。都心での生活ではなかなか季節を感じる機会がない分、登山をしている時はゆつくり景色を眺め、季節が変わったことを実感しています。

登山愛好家としてはまだまだ登頂数も、山の知識も皆様には及ばず未熟です。皆様と登山に対する気持ちを1日でも早く分かち合えるよう、今年は去年より1つでも多く登頂し、父からの教示や本から新しい山の知識を増やしたいと思っています。機会がありましたら、ぜひ皆様の数々の登山の思い出を聞かせていただければ幸いです。

これから宜しくお願い致します。

日本山岳会越後支部 令和2年4～8月の行事可否 について

越後支部長 桐生 恒治

執行部関係者で打ち合わせた結果、左記のとおりと致しました。

- ・4月23日(木)
平日トレッキング「八石山」〓中止
- ・5月14日(木)・平日トレッキング
「大仏山・須刈岳」〓中止
- ・5月23日(土)・支部総会「西会津」
〓中止
- ・5月24日(日)・親睦山行「大山祇神社」
〓中止
- ・6月14日(日)・公募登山「妙高神奈山」
〓中止
- ・6月中旬・支部報第28号発行〓発行は予定通り
- ・6月27(土)・28(日)日・靴音・寄り合いの集い「長岡・風谷山」〓中止
- ・7月25日(土)・第63回高頭祭「弥彦山大平園地」〓中止
- 同時開催の「第67回弥彦山たいまつ登山祭」〓中止
- ・8月9(日)・10(月)日・第4回糸魚川ジオパーク子ども登山教室〓1年延期
- ・8月22(土)・23(日)日・上高地集会「美ヶ原・西穂高」〓中止

【注記】9月以降の行事開催については、6月末頃までに支部三役・委員長会議で協議しご連絡致します。

※本情報は、越後支部ホームページにも詳細掲載しています。

講演会のお知らせ

(事業委員会・YOUTH委員会)

演題・山の天気ライブ授業と海外登山の話
講師・猪熊隆之氏

(日本山岳会会員、村上市出身)

坂井広志氏

期 日・10月3(土)・4(日) 日
場 所・五頭山麓 出湯自然養生園
すからべ庵(宿泊)

参加費・4000円 当日会場にて徴収
定 員・参加定員先着30人

申込先・小山副支部長(事業委員長)
※本越後支部報第28号送付時に資料同封

山岳写真愛好家の皆様へ (フォトスケッチ同好会より)

フォトスケッチ同好会

会長 本間 一人

具体的な日程は決まっていますが、環境を整えば山岳写真展を開催したいと考えております。

日頃登山を楽しみながら素晴らしい写真を撮影している皆様に、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

○写真展の主旨

・新潟県の素晴らしい山岳美を、一般の登山愛好家の皆様にも見ていただくと共に、組織の存在を認識してもらう。

・登山者の組織化により、山岳事故の撲滅を図る。

・植物の保護に関心を持っていただき、自然保護思想を普及させる。

○会場について

・会場は、上、中、下越の各施設、県庁、県民会館などを考えています。会場を確保していただける方は御協力のほど宜しくお願い致します。

○出展要領

・写真サイズは、全紙版または半切版をパネル表装。

・応募者は、往復はがきに住所・氏名・電話番号・写真タイトルを記入し、次の宛先に送る。なお写真タイトルは、決まってから後日連絡しても良い。

・宛先・連絡先

〒950-0120

新潟市江南区横越上町2-11-6

本間 一人

自宅電話・025-385-2225

携帯電話・090-3641-1792

集云委員会より連絡

集云委員長 立入 清

春季と秋季の2回、会員の親睦を図るため計画しています「靴音よりあいの集い」の春季集云委員会は、新型コロナウイルスのため延期させていただきました。

環境が整いましたら秋季に計画します。

決まりましたらホームページにアップします。

近間になったらご確認ください。



事務局からのお知らせ

●会員動向(2020年2月～5月)

①新入会員

後藤 邦子(16588) 新潟市
和田 甲臣(16624) 長岡市
和田 星子(16625) 長岡市
小根山 淑美(16627) 新潟市

②退会者

佐藤 俊彦(4283) 新潟市
高嶺 グループ(4283) 新潟市
大島 隆(15377) 上越市
湯本 浩司(15247) 上越市

③支部会員総数

令和2年5月25日現在177名

●新型コロナウイルス対策

自粛を優先し、三密を避け、体力維持の山行を心がけましょう

先が見えない不確かな状況ですが、ご協力をお願い致します。

編集後記

今年に入り新型コロナウイルスの報道が徐々に増え、とうとう緊急事態宣言発動の事態となりました。

越後支部では、本年4月～8月の行事計画の殆どが中止または延期の処置がとられました。本支部報第28号は予定通り発行することになりました。

厳しい環境にもかかわらず、支部報作成に協力してくださいました皆様に、心より感謝いたします。

まことにありがとうございます。

(鈴木 勝利)